



与那原町史だより

与那原町教育委員会 生涯学習振興課 町史編纂係





『謎の写真を巡って』

1. 町史所有の一枚の写真

この写真は、与那原町史編纂係が長年収集してきた写真の中の1枚である。写真に一切の情報が無いため、書庫に眠っていたものだが町史編纂が教育編を編集するに当たり、この町史だよりの場を借りて改めてこの写真を取り上げ、町民の皆様の写真に関する情報の提供を呼びかけたい。

写真を取り上げる理由として2つ挙げられる。1つは撮影された場所が学校であること、そして2つ目、写った人物像の背後に「奉安殿」と思われる建造物が写っていることがその理由である。奉安殿とは、天皇皇后両陛下の御真影と教育勅語を安置するための保管庫を差し、戦前、各地の尋常小学校敷地に設置された。戦後、多くの奉安殿は撤去されたが、現在でも各地に残っていて戦前の教育を語る貴重な史跡となっている。

2. 謎の奉安殿

問題は、写真の奉安殿がどこの奉安殿なのか？ということである。戦前の与那原の子どもたちは、与那原文教場が、与那原国民学校として独立する（S16年）までは2つの学校に通っていた。小学校1年～4年までは与那原分教場に通い、小学校5年生に上ると大里村嶺井の本校、第一大里尋常高等小学校へ通うという形を取っていた。

これまで町史編纂では、沖縄戦体験者の聴き取り調査の中で、御真影のあった場所として、与那原分教場には無かった。大里の本校に奉安殿があった。いや、奉安殿は無いが

教室の壁上側に置かれていた等その証言内容は様々であった。今回、写真の撮影場所を特定するにあたり、町内の昭和8年～13年の間に第一大里尋常高等小学校を出られた方々に話しを伺った。

3. 聴き取り調査の結果

聴き取り調査の結果をまとめたのが下記の表となる。奉安殿が“ある”もしくは“あったかも知れない”と答えたとお2人が96歳の同級生で、それより年下になると一様に“無かった”の答えになり、御真影の場所を質問すると、“校長先生が運んだ箱の中”と“教室の一角に設置されていた”の2つの答えになる。年齢順にこれらを一列に並べると、奉安殿→移動できる箱の中→教室の一角と御真影の場所が移動しているとの1つの見方が成り立つ。これは何を意味するのか？

生年月日 (2018年1月15日現在)	年齢	奉安殿は ありましたか？	御真影を 納めていた場所	四大節の 様子	校舎の 配置
1921(T10)年生	96歳	はっきりあった。	奉安殿	○	○
1921(T10)年生	96歳	在ったような 気がする。	分からない	×	△
1922(T11)年生	95歳	無かった。	校長先生が持って きた箱の中	○	△
1922(T11)年生	95歳	分からない	分からない	×	×
1925(T14)年生	92歳	無かった。	覚えていない	×	×
1925(T14)年生	92歳	無かった。	高等科の教室の上側	○	◎
1926(T15)年生	92歳	無かった。	東側の教室の端	○	○

4. 「第一大里尋常小学校不祥事件」

その手がかりとして1つの記事がある。「第一大里校不祥事件対策」『沖繩日日新聞』(昭和8年1月14日土曜日3面)。新聞記事には、事件についての記述が無く、事件が県議会で論及され、校長が県学務部長に進退伺と始末書を提出、県当局は県下各中小学校長宛てに御真影並びに教育勅語謄本詔書等の奉安所の設備、宿泊員、奉護心得、非常時の処置等に付き、一層の注意を払うよう警告的通牒を発送たと記載されている。この日付は96歳の方が小学5年生の時期に重なる。明らかに奉安殿に絡んだ事件である。

さらに事件の詳細が記録されているのが『沖繩県議会史』(沖繩県議会事務局編1984)にあり、1933(昭和8)年1月6日(金)、“第一大里小学校における奉安庫損壊”の名目で記録されている(p284～285)。事件は、1932(昭和7)年12月30日午後6時半、奉安庫に不敬漢が入り、錠をこじ開けて針金を破って侵入し、教育勅語詔書を遠くへ持ち出して隠してあったとの警察からの報告があり、また、その犯人が部外者では無く、校内取締者の過誤に出たものであるとの捜査内容であった。県議会では県学務部の人事政策の失策が今回の不祥事の根本原因だったのではないかと県当局の責任を追究している。以上が『県議会史』の内容である。補足として、当時、経済的不況を背景に教員の給料未払いや失業教員の増加があり、多くの教員が不満を募らせていた。

5. 真実の行方

この事件が、その後、第一大里尋常高等小学校に奉安殿を失くすきっかけであった可能性は非常に高い。残念ながら事件がどのような顛末を辿ったのか、それらを確認する新聞資料が、沖繩戦の事情により一部の年間だけ空白となり確認する事が出来ない。今後、どこかでその時代の新聞が発見されることを祈るばかりである。

最後に、『沖繩市郷土博物館紀要あやみやNo.25』(2017)に奉安殿の建造年についての調査報告がある(p33～37)。その中で昭和6年と昭和15年の学校配置図が掲載されており、昭和6年の最初の奉安殿は校長住宅の傍に配置されていた。聞き取りをした96歳の方も奉安殿の位置を校長住宅の傍と指し示していたことを鑑みると、設置初期には奉安殿の設置条件に責任者である校長の住宅の傍に設置するとの規定があったのではないかとと思われる。

現在、奉安殿の存在を語って頂いたのは96歳の方お1人だけである。今回の写真についても、第一大里校の奉安殿は神社の様な社型ではなく、写真と同じ四角いコンクリートの形であったと語っていた。

この証言を受けて直ちにこの写真が第一大里尋常高等小学校の奉安殿であるとは断言できないが、これからも与那原町民の皆様より情報の提供を頂いて、1つ1つその検証を重ねて町民の皆様へ報告できればと願っている。

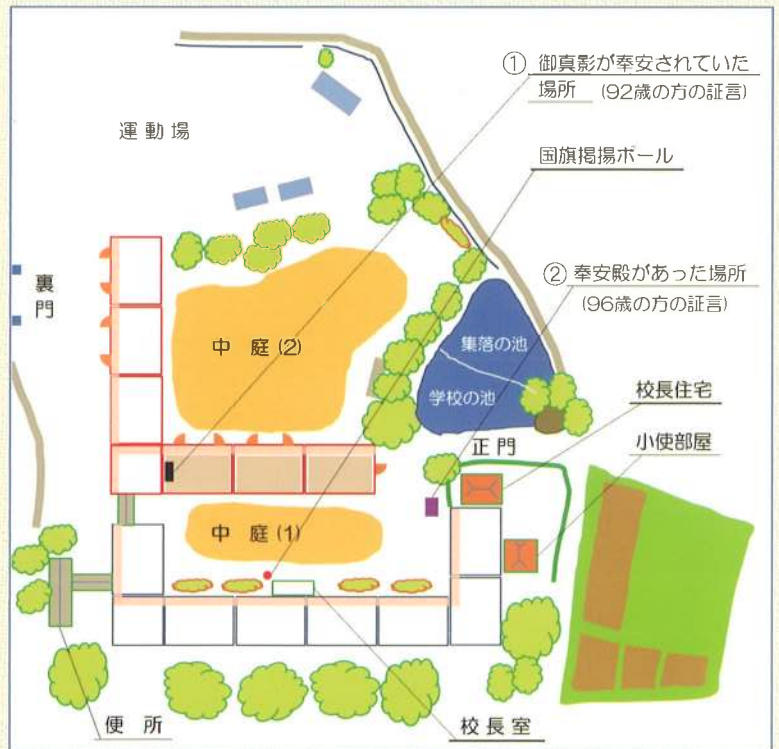
町史編纂にて編集中の『与那原町史図説編 与那原教育のあゆみ』に奉安殿や四大節についての解説もあるので是非ともこちらも合わせて読んで頂きたい。



「県学務課が警告／学校宿直を嚴重に／将来を戒め瀬長校長進退伺保留／第一大里校不祥事件対策」『沖繩日日新聞』(1933(昭和8)年1月14日土曜日3面記事) 沖繩県立図書館所蔵

※この日付の新聞は『沖繩県史研究叢書17 植物標本より得られた近代沖繩の新聞』(沖繩県教育委員会2007)に所収されている。

○聞き取りを元に作成した第一大里尋常高等小学校配置図



① 1925(大正14)年生92歳の方の証言によれば、中庭に挟まれた3つの教室は高等科の教室で、四大節の日には全校生徒がこの場所に集まったという。

② 上記の配置図に、1921(大正10)年生96歳の方の証言による奉安殿の位置を示した。毎朝、正門より入って奉安殿の前であいさつした後、校長住宅後ろの教室に入って行ったという。5年生の時の教室である。